

ひまわりからの メッセージ

59号
2016.3.14
西濃園城
発達障がい支援センター
ひまわり
発行人：中野たみ子

風の電話

亡き人へ心の声を……



東日本大震災から五年目となる日の前日、NHKで「風の電話」のことを放映していました。

大槌町の高台に建っている電話ボックス。その中には黒いダイヤル式の電話が一台置かれています。電話ボックスの周りには風が生まれ、その風に托して、大切な人を亡くした人たちが、語りかけておられました。ある方は遺体さえ見つからないお父さんに、またある方は奥さんとお子さんに、またある方は、無くなってしまった自宅のダイヤルを回してじっと無言で佇んでおられました。五年という歳月は、流れてもあの日が還ってくることは

ありません。被災された人たちの以前の生活が戻ってくることもありません。ご主人を亡くされ、三人のお子さんを育てている方が一家で風の電話を訪ねておられました。「死のうかと思つた日もありましたが、主人が残してくれた三人の子も立派に育つたければと思つて……とおっしゃっていました。三人のお子さんたちも各々に震災後はじめてお父さんのことを口にされたということでした。

風の電話には、悲しみをこらえて生きている人たちの心の声を引き出してくれる力があるのです。

風の電話。誰か名づけたのでしょうか。人に言えない心の内を聴いてくれる電話。その電話でどれ程の人が救われたことでしょうか……。

人は、二度死ぬのだと聞いたことがあります。亡くなった人を出してくれる人がいなくなった時が二度目の死である。……と。この職についてから亡くした多くの子ども達、今年も新しい手帳に、亡くなった子どもたちの命日も書き写しました。電話はないけれど、心の中で呼びかけながら……。

子ども達が困っていること



先日、支援センターの親の会の皆さんに、「お子さんが今まで困っていたことと、その対処法を教えてください」とお願いしたところ、多くのお母さん方が返事を下さいました。

私も学校や園などで相談を受けることも多々ありますので、その辺も含めていくつか書いておこうと思います。

きちゃんと座りましょう。きちゃんと立ちましょう。

「きちゃん」とってどうすること？、「いつから」「いつまで」座っていいの？、具体的にできないと困ってしまいます。

好きな絵を描きましょう。

好きな絵って？、どんな絵？、好きなものが分からない

子もいますが、好きなものが多すぎて選べない子もいます。

困っていることが伝えられない。

園と小学校のひきつぎ会をしていると、園の先生からは「困っていることが言えないので表情や行動から、こちらが感じ取って声をかけます」と言われますが、何か方法はないでしょうか。数年前、ある小学校へ伺った時（一学期でした）子どもの机の上に表情のカードが置かれていました。表にはニコニコ笑顔、裏面に泣きそうな困った顔。机間を回りながら、先生は困った顔カードを出している子に声をかけておられました。

お母さんの中にも、困ったことが伝えられない我が子を心配して、担任の先生にお願いされた方もありました。

ただ、最近はこの場で表現する力が一般的に弱くなってきた傾向にありますから、「どこが分からないの？」

「どうしたいの？」「何で困っているの？」「言ってみようかなさい」と逆に質問されて、よけいに困ってしまうこともあります。相手の気持ちを読みとく大切さは、大人

の側にも求められることなのでしよう。

朝の準備に時間がかかる。



周りのことが気になる子、刺激が入りすぎちゃう子には、とても多いことです。絵カードを使って順番に……と保育園でやっていただいたことは、それなりに身についたかもしれませんが、特性として周りが気になってしまいう子には、そのカードを使うことすら難しいでしょう。次に何をすると良かったかと気づかせること、そして気づけたことを認めてほめてあげることが必要です。もちろん前日の持ち物確認は、お母さんと一緒にして、確認することを経験化していきましよう。

登校班でのトラブル

実は、登校班でのトラブルはとても多いのです。人との距離感がとれない子、興味のあるものにすぐ走って行こうとする子、並んで歩けない子等々、六年生の班長さんだけでは対応できないことも多いのです。まず、

とついて行きました。「班長さんに頼んで手をつないで行ってもらいました。」という方や、「上級生に田んぼの中に落とされました。」という方もありました。

また、上級生になって「とても自分の子は班長としてやっていくことは難しいと思う。」と、班長を辞退された方もおられました。

学校とは直接かわりがない所でのトラブルや、いじめなどは、ご家庭の協力がどうしても必要だと言えます。

図工で作る手順がわからない

新しいことが苦手だったり、空間認知などが弱い子はイメージができずに困ってしまいます。一時間中、考え込んでしまったり、箱にテープを巻くだけで終わってしまったり、材料の使い方がわからなかったり……。出来ないのではないのです。家庭で、教科書を見ながら、まず一緒に作ってみて、材料などの確認もしたというお母さん多いんじゃないでしょうか。自分の子がどんな所で困るのか、先生方よりも知っておく必要があるかもしれません。

失敗から立ち直れない

完璧を求める子、自分の目標を決めて取り組む子の中に多いでしょう。「本を一度も間違えずに読む」とか「漢字を正しく書く」などの目標は、うまくいかないことも多いでしょう。そうすると、大泣きをする、自分の頭を叩いたり、手を噛む、鉛筆をかむ、自分のまじがいを認めない等々、様々な行動に出て、気持ちの切りかえが難しいものです。

最初の目標のたて方も「一度も間違えずに読む」ではなく、段階的な目標の立て方や、「ただし、三度までは良しとする」など、そこの折り合いのつけ方を学ばせていくことも必要ではないかと思えます。

どうしても、うまくいかなかった自分が許せず自傷に走ってしまった時には「落ちつくのを待つ、最初からうまくいかなくても良いのだ」と話して聞かせました。というお母さんもいらっしゃいました。

自分で目標をたてることは、難しいことです。成人してからでも、自分で立てた目標ができなくてパニックになっ

てしまった人もいます。「今日の予定が終わらないのです。どうしたらいいですか?」という質問もあります。「いつかういつまで何をするか、予定を立てます。そしてできなかったり次の日に続きをします。」と教えると納得できたという人もありました。

学習面で困ったこと

①「魚は全部でなんびきいるでしょう?」

ご存知のように、魚の教え方は数によってちがいます。

一びき、二びき、三びき、四びき、五びき、六びき……というように、「ひき」「びき」「びき」と数の下につくことはかちがいます。三たす二は、五びきですが、質問では「なんびき」と聞いています。だから、どう答えていいのか分からないのです。

教え方を家で練習しておくと、いいでしょう。

②「この单元ではじめて知ったこと、楽しいと思った事を書きましよう。」(小三年の理科のテスト)

「家庭教師の先生と予習したので、はじめて知ったことは



ないし、楽しいと思ったこともない。」と言って、白紙で提出しました。「そうだよね...と妙に納得してしまいました。」

③ 算数の中での文章理解の難しさ

・一回目、二回目の「目って何？」

・「本残してください」

・「くずつ」

・「合わせて」「取って」

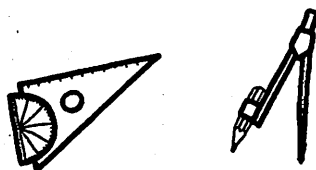
・「入ってきました」「出てきました」

文章を読んで、足し算なのか、引き算なのか、かけ算なのか、割り算なのか...言語的推理の弱さをもつ子にとって、本当に難しいのです。

あるお母さんは「割合」について、お子さんが分からない問題と教えて下さいました。

「定価一、二〇〇円のマフラーがあります。A店では七割B点では二〇パーセント引き、C店では三〇〇円引きで売っています。どの店が一番安いのですか？」

お子さんが困ったのは、A店の七割という所です。お母さんが、「定価の七割」という意味だよ」と言っても「



く割りき」がないと引いてもダメ。」と言ったそうです。お母さんはグラフにして説明されたそうですが、計算はできるけど文章問題は苦手という子どもたちは多いのではないだろうか。

④ 書くことが苦手

黒板の予定表や、先生の板書を書き写すのに、とても時間のかかる子がいます。遠くにある黒板の文字に焦点を合わせて読み、記憶し、焦点を手元に移して文字を書き、又、遠くの黒板を見て、さっきの続きを見つけて...ということを繰り返さないと板書も写すことはできません。しかも漢字の形がとれない子にとっては、それこそ地獄の様な毎日に違いありません。

あるお母さんは、国語は、国または「こく」でも良いことにしたとのこと。私の教え子の中には、中学生で板書は全てひらがなで書いている子がいました。読めるけれども漢字が書けないので、ノートはひらがなで書いていたのです。先生方は、それを許して下さっていたので不登校にならずにすんだのでした。

読み書きに困っている子は、意外に多く、学習不振と



て見られることも多いはずですよ。

机の上が片づけられない

前の授業を使ったものが片づけられないために次の教科
のものが用意できないお子さんに、お母さんは教科毎に入
れる袋を用意されました。あるお母さんは、教科毎に教
科書とノートの上にマジックで色づけをされたこともあり
ましたが、担任の先生のご理解がないと、かえって子どもが
叱られることになりました。事前の話し合いが必要ですよ。

掃除をしない。さぼっている。

掃除をしない子の中には、どこも、どの様にしたらいい
のかが分かっていない場合があります。以前、専門学校
生がボランティアで来てくれた時、外さうじを頼んだと
ころ、ほうきとチリ取りの扱いがわからず困っている姿が
ありました。こんなことは当然わかっているだろう、この
学年なら知っていて当然、ということでも困ってしまってい
て、悪い評価を食わけてしまうということは、よくあるこ
とですよ。

子どもたちが何に困っているのか、私たち大人の方か
しかりした観察目をもっていないと、困っている子をよけ
いに追いつめ、結果的に「困った子」としてレッテルを
貼っていくことになりかねません。
常に心していききたいと思っています。



ところで、私はこのたび定年でひまわりを去ることにな
りました。西濃園域発達支援センターは県の委託事
業ですが、法人委託のため、新たにいかわクリニック内
にNPO ひまわりの花をたち上げました。

センター親の会の会場は、とりあえず四月、五月は中川
ふれあいセンターになります。少し遠くなる方もいらっしゃるで
しょうが、よろしくお願いします。(四月十日、9:30)
大垣市内の小中学校は、継続訪問をしていきますし、
他の市町は、お声をかけていただければ伺えると思
います。みなさん力を合わせて子どもたちを見守り、支
えていきましょう。

新入会員も大歓迎です!! (親の会会費・無料)